

恵比寿映像祭2023

展示出品作家など、第2次情報決定！



恵比寿映像祭2023 「テクノロジー？」

2023年2月3日（金）～2月19日（日）《15日間》月曜休館
コミッション・プロジェクト（3F展示室）のみ、3月26日（日）まで開催
会場 東京都写真美術館、恵比寿ガーデンプレイス センター広場、地域連携各所ほか
時間 10:00～20:00（最終日は18:00まで）※入館は閉館の30分前まで

恵比寿映像祭2023について

アートと映像の表現プラットフォームとして、新たな事業がスタート。
映像文化の創造と紹介・体感の場としてのフェスティバルが、さらに活性化！

恵比寿映像祭では、映像という言葉に限定的に用いるのではなく、映像をめぐる様々な選択肢に目をむけ、多様化する映像表現と映像受容の在り方を、あらためて問い直してきました。芸術と映像が人にもたらしうるオルタナティブな価値観（ヴィジョンズ）の生成を促し、存続させていくためのプラットフォームとして、発信を続けています。

毎回、テーマや「映像とは何か」という問いを投げかけながら、国内外の映像表現を紹介してきた10年以上の歳月のなかで、映像を取り巻く状況は大きく変化してきました。

このような映像をめぐる社会状況の変化のなかで、「映像とは何か」という問いを引き続き深めていくために、15回目を迎える恵比寿映像祭2023からは、「コミッション・プロジェクト」をはじめとする、いくつかの新たな試みを開始することで、継続的なプラットフォームとしての映像祭の役割をさらに強化していきたいと思えます。

※今年度より、実施回数を掲げる名称から実施年の西暦表記へ変更となりました。

恵比寿映像祭とは

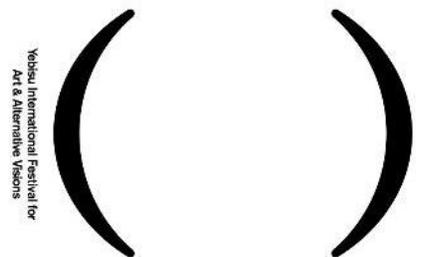
恵比寿映像祭は、平成21（2009）年の第1回開催以来、年に一度恵比寿の地で、展示、上映、ライブ・パフォーマンス、トーク・セッションなどを複合的に行ってきた映像とアートの国際フェスティバルです。映像分野における創造活動の活性化と、映像表現やメディアの発展をいかに育み、継承していくかという課題について広く共有する場となることを目指してきました。

ロゴについて

映像をめぐる、ひとつではない答えをみんなで探していこう！という「恵比寿映像祭」の基本姿勢を、オープンなフレームとしてのカッコに託しました。

—— 映像というカッコにあえて入れてみることで、
はじめて見えてくるものがあるはず

何かを限定するためではなく、いろいろなものを出し入れして、よく見てみるためのカッコです。



開催概要

名称 | 恵比寿映像祭2023「テクノロジー？」
Yebisu International Festival for Art & Alternative Visions 2023, "Technology?"

会期 | 2023年2月3日（金）～2月19日（日）《15日間》

時間 | 10:00～20:00（最終日は18:00まで）
※それぞれ入館は閉館の30分前まで

休館 | 毎週月曜日

コミッション・プロジェクト（3F展示室）のみ、3月26日（日）まで開催
時間は、10:00～18:00（木金のみ20:00まで）

会場 | 東京都写真美術館／恵比寿ガーデンプレイス センター広場／地域連携各所ほか

料金 | 入場無料

※一部のプログラム（上映・イベントなど）は有料

※オンラインによる日時指定予約を推奨します

（日時指定予約および前売券の販売開始日はプレスリリースVol. 03で発表します）

主催 | 東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／日本経済新聞社

共催 | サッポロ不動産開発株式会社／公益財団法人日仏会館

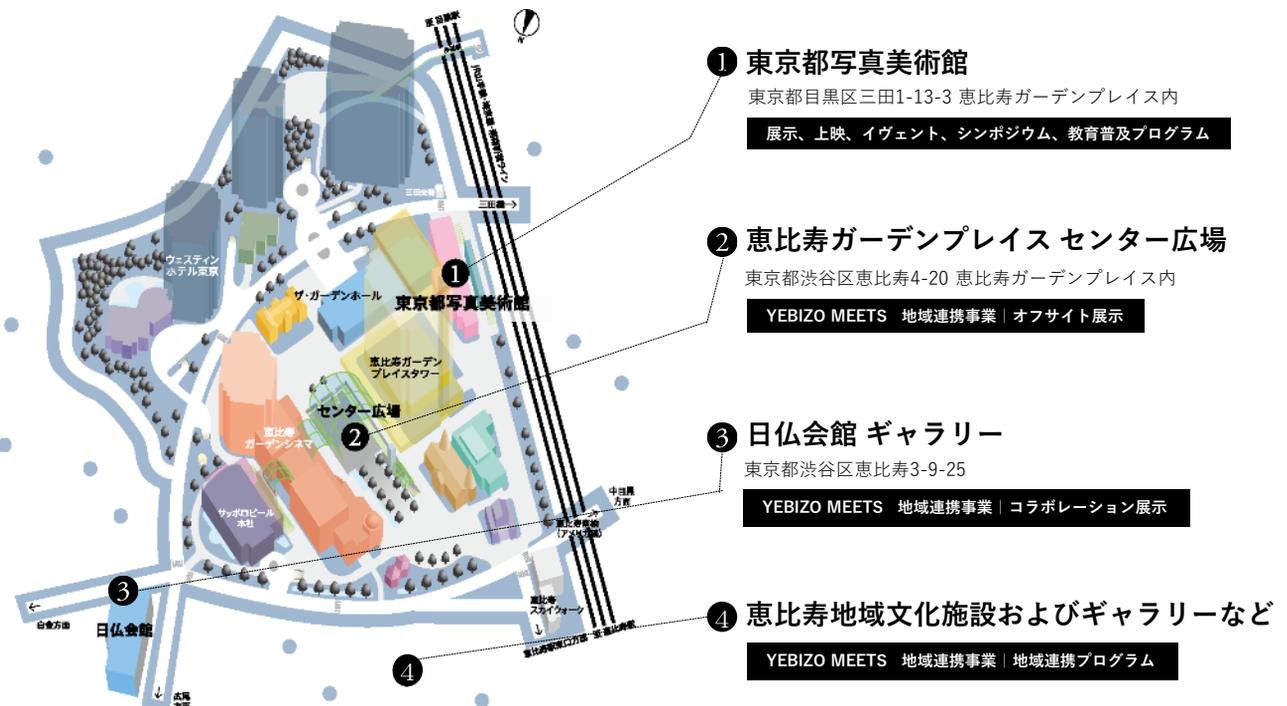
後援 | 在日スイス大使館／株式会社TBSホールディングス／J-WAVE 81.3FM

協賛 | サッポロビール株式会社／東京都写真美術館支援会員

公式HP | www.yebizo.com

公式SNS | Twitter: twitter.com/topmuseum/ Instagram: [instagram.com/yebizo/](https://www.instagram.com/yebizo/)

会場構成（予定）



恵比寿映像祭2023

テクノロジー？

Yebisu International Festival for
Art & Alternative Visions 2023

Technology ?

私たちが日常目にする映像技術である、写真、映画、ビデオやアニメーション。これら映像表現のテクノロジーは、19世紀以降、大きく発展し、今日では高解像度のイメージや、より長時間の映像を処理することができるようになりました。映像技術は、より高精細で、より情報量の多いイメージを作ることを目指して発展してきたと言っても良いかもしれません。

技術には、一般化されて広く共有され、定着していくという側面がありますが、共有されるための規範は、誰が、いつ、どのように決めるのでしょうか？今当たり前に見ている高精細の映像が、100年後にどのようなリアリティとして受け止められるのかは誰も予測できません。歴史を振り返ったとき、技術が思いがけない要素として働いていた、ということを発見することがあります。例えば、高解像度の映像の中に、あえて手作りの感触を含めることで、臨場感を高めるなど、時にアーティストの表現は、そうした技術の対話の中から生み出され、思いもよらない発見をする可能性を持っています。

恵比寿映像祭2023では、「テクノロジー？」というテーマを通して、多種多様な映像表現の実践を検証し、アートと技術との対話の可能性を考察していきます。

総合テーマ「テクノロジー？」のコンセプト

総合テーマ「テクノロジー？」は、以下のような視点で構成しています。パンデミックによってテレワークやオンラインでの会話が日常化し、また、AI（人工知能）や機械学習、Web3.0、メタヴァース、AR/VR、NFTなどの新しい技術の普及は、人々の身体感覚までも変化させています。しかし、そもそも現代に限らず、写真や映像が、機械の眼を通して表現されるものと定義すれば、近代以降、すべての表現は、テクノロジーを介在させていると言っても過言ではありません。「恵比寿映像祭2023」では、時代ごとにアートと技術がどのような関係のなかで表現を生み出してきたかを考察することで、テクノロジーに溢れた現代を考えるヒントを探っていきます。

1. 時代ごとのテクノロジー（技術）を紐解く

イメージの標準化を解体し、再構築する

誰もがスマホで映像を撮影できてしまうように、産業や既存の規格により、写真や映像のような技法は標準化されてしまうことが一般的です。しかしアーティストたちは、あえてそのことに疑問符を投げかけ、見え方や成り立ちに手を加え、独自の挑戦をしてきました。テクノロジーを紐解き、新しい表現の可能性を探る取組みを紹介していきます。



越田乃梨子《机上の岸にて》2010年 東京都写真美術館蔵

技術と表象の見えない部分を覗き見る

写真や映像のイメージは、意識して覗き見なければ見えないままに表象のみが流通してしまいます。技術の裏側に何があるのか、いかにして表現が成り立っているかなど、その相関関係に目を凝らしていきます。

2. 身体や視点を拡張させるテクノロジー

技術を通じて拡張する身体

私たちは映像を見る時にテクノロジーを介して、視覚や身体が拡張していくような体験を既に体感しています。最近では仮想空間のアバターイメージを通して、デジタル空間で生きるような感覚や視覚による超越を感じるなど技術によって得たイメージは拡がりを見せています。



ルー・ヤン《DOKU（ルー・ヤンのデジタル転生）》2020年〜
【参考図版】

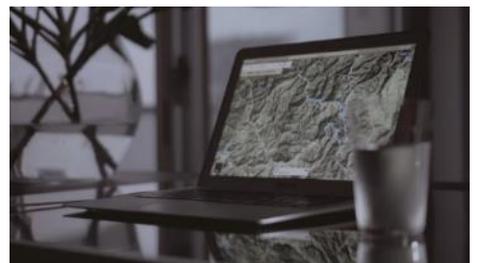
出品協力：スパイラル／株式会社ワコールアートセンター

人工であることのリアル。デジタルカルチャーへの問い

生まれた時からデジタルに囲まれ、コミュニケーションもデジタル上で交わされることが当たり前となった世代からは、ジェンダーも国籍も哲学もすべて越境するような思想が生まれ、その共通言語が存在しています。リアリティとテクノロジーの間を駆け抜ける文化の本質的な問いを投げかけます。

3. 都市や自然のナラティブ（物語性）に潜むテクノロジー

都市は、歴史や個人の記憶、自然環境の変化など様々な物語を抱えています。しかし現代に至っては、スマートシティと呼ばれるように、都市は人工的な有機体としての役割を担っているとも言えるでしょう。人間が作り出した都市のテクノロジーや、そこに存在する自然に目を向けると、見えない都市の営みが現れてきます。都市や自然の諸相をめぐるアーティストたちの表現や、そこに向けられた機械の眼などを歴史的に考察します。



梅沢英樹+佐藤浩一《Echoes from Clouds》2021年

恵比寿映像祭2023のトピックス

恵比寿映像祭2023は、今回の開催で15回目を迎えます。テーマに関連した展示のほか、「コミッション・プロジェクト」や他組織とのコラボレーション展示など新たな要素を踏まえ実施いたします。

国内外の審査員により選出された作家が新作に挑む、「コミッション・プロジェクト」

約300名の候補者から東京都写真美術館及び事務局で厳選し、1次審査を開催しました。国内外から選出された5名の審査委員によって審査会が開催され、4名の作家による新作制作委嘱が決定しました。総合テーマに拠らない、恵比寿映像祭の根源的な問いである「映像とは何か」を軸に新作委嘱作品が制作され、東京都写真美術館3F展示室にて披露いたします。

また、会期中に「コミッション・プロジェクト」の特別賞を決定する審査会を行います。その結果は、審査委員が登壇するシンポジウムで発表されます。乞うご期待！

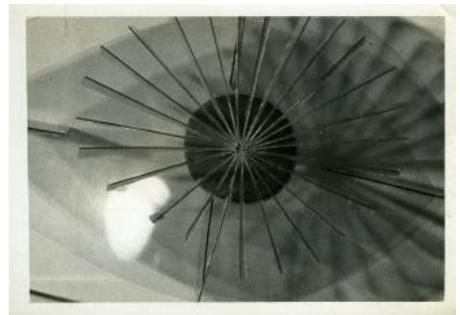


写真：荒木悠（左上）、葉山嶺（右上）、
金仁淑（左下）、大木裕之（右下）

総合テーマ「テクノロジー？」に紐づいたテーマ展示。 時代や作家らの視点による技術と表現の相関関係に出会う。

総合テーマ「テクノロジー？」のもと、展示出品作家が決定。多種多様な映像表現から、各時代に潜むアートとテクノロジーの関係を考察していきます。

戦後日本美術の新たな時代を切り開いた「実験工房」によるスライドと音声テープがシンクロして映写されるオートスライドの実験に始まり、セルフCGによるアバターを仮想空間上でデジタル転生させる、中国出身のマルチメディアアーティスト、ルー・ヤンまで、時代ごとにさまざまなテクノロジーに可能性を見出した作家たちの作品を紹介いたします。



実験工房 オートスライド《試験飛行家W・S氏の眼の冒険》
1953/1986年 個人蔵

多様なニーズに対応するインクルーシブプログラムや昨年人気を博した星占いガイダンスなどにより、 フェスティバルをお楽しみください！

前回の恵比寿映像祭から開始となった教育普及プログラム。今年度は、やさしい日本語によるガイドや手話通訳付きのオンラインプログラムなどインクルーシブプログラムが充実いたしました。そのほか、自由に参加できるオープンワークショップや思いがけなく作品と結ばれる星占いガイダンスが今回も登場します。これまで恵比寿映像祭に行きたかったけれど、なかなか難しかったという方も様々な方法でお楽しみいただけます。



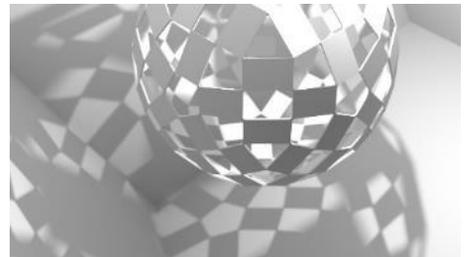
ボランティアによるアニメーションオープンワークショップ
(2022年)の様子

恵比寿映像祭2023のトピックス

東京2020大会・開会式で空中に現れた球体の組市松文様を、恵比寿ガーデンプレイスで再編成展示！

東京2020オリンピック競技大会の開会式では、ドローンにより球体の組市松文様が空中に表現されました。本プロジェクトは、菱形三十面体から生成した百二十面体の各面に長方形をはめることで表現されたこの球体を、新たにインスタレーションとして再構築するものです。開会式のドローン演出を手がけたメンバーである、野老朝雄、平本知樹、井口皓太が協働し、変化に富んだ映像を生み出すインスタレーションを発表します。

本作品は、渋谷に新設されたシビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT] における「アート・インキュベーション・プログラム」のアーティスト・フェロー活動の一環として制作されます。



野老朝雄、平本知樹、井口皓太《FORMING SPHERES》2023年 [参考図版]

総合テーマ「テクノロジー？」に関連し、ECAL（ローザンヌ美術大学）のカメラの全自動（オート）化による写真作品プロジェクトをコラボレーション展示。

「Automated-Photography」プロジェクトは、カメラの全自動（オート）化による写真作品創作プロセスのパラダイムシフトをテーマとした、ECALの写真学部マスターコース生によるリサーチプロジェクト。2021年パリでの展示で好評を博し、このたび日本で初公開いたします。リモートセンシングや検索エンジンと身体データのデータ化についてのアルゴリズムを批判的に捉える調査、生物と心理学の中毒的な行動メカニズムによる強制システム撮影、コンピュータービジョンと人間の知覚から撮影された画像をもとに画像生成された山や雲などの絵画と写真の不気味な中間表現など、様々なリサーチプロジェクトを展示。

Vitality.Swiss*の一環として、恵比寿映像祭がスイス大使館とコラボレーションし、地域連携の一つである日仏会館ギャラリーを会場として展示します。



《See me in Depth》2019年 ©ECAL/Gohan Keller

*Vitality.Swissとは、スイス大使館が実施する、2025年に開催する大阪・関西万博に向けたコミュニケーション・プログラムとなります。

現代美術の先駆者、再開したシネマ、地域の子供の居場所におけるアートスクールなど 新たな地域の担い手が参加し、今年も恵比寿エリアで多彩な地域連携プログラムが実現！

「YEBIZO MEETS」は、多くの人々が多様な映像表現に触れる「開かれた」機会として、様々な文化機関や地域において活動するアートの担い手とテーマを共有し実現するプログラム。地域で活躍するアートの担い手たちと行う「地域連携プログラム」や地域をめぐるシールラリーなどを通じて、フェスティバルを楽しむきっかけをつくります。

今回は、現代美術の先駆者、再開したシネマ、地域の子供の居場所におけるアートスクールなど、新たな地域の担い手が参加するのみならず、オフサイト展示や日仏会館ギャラリーでのコラボレーション展示を含め多数の企画が実現します。街をめぐりながらアートをお楽しみください！



コミッション・プロジェクト展示

東京都写真美術館 3F
無料（～3/26まで開催）

3F展示室では、今年度から実施する新たな事業「コミッション・プロジェクト」の審査により選出された4名の作家たちの新作をお披露目いたします。作家たちのこれまでの活動の蓄積をもとに、それぞれの視線で今問うべき映像表現を提示いたします。なお恵比寿映像祭で提示された新作は、今後国内外の文化施設や文化組織で発信することを想定しています。ぜひ、お見逃しなくご堪能ください。

01. 荒木悠 | Yu ARAKI



荒木悠《新作》2023年 [参考図版] ©2022 Yu Araki

ワシントン大学で彫刻を、東京藝術大学では映像を学ぶ。日英の通訳業を挫折後、誤訳に着目した制作を始める。英語圏において、「 Casting」と呼ばれていることを起点に、オリジナルからコピーが作られる過程で生じる差異を再現・再演・再生といった表現手法で探究している。2018年はアムステルダムムのライクスアカデミーにゲスト・レジデントとして滞在。2019年フューチャージェネレーション・アートプライズのファイナリストに選出。2020-21年度アーツコミッション・ヨコハマU39アーティストフェロー。 <http://yuaraki.com/>

02. 葉山嶺 | HAYAMA Rei



葉山嶺《Hollow-Hare-Wallaby》2023年 [参考図版] ©2022 Rei Hayama

野生動物や環境問題と深く関わる特殊な環境で幼少期を過ごす。多摩美術大学造形表現学部映像演劇学科で学び、2008年より映像制作を始める。自然と人間との調和を求める彼女の作品は、人間中心の視点から失われたり、無視されたりする自然や生き物を中心に展開され、人間には見ることができない「自然の現実の層」を人間の想像力の中に浮かび上がらせる。近年では、Bonner Kunstverein(ドイツ)、National Gallery of Zimbabwe(ジンバブエ)、Jeu de Paume(フランス)、Sifang Art Museum(中国)、釜山ビエンナーレ2020(韓国)、NTTインターコミュニケーション・センター [ICC] (東京)、Empty Gallery (香港)などで展示・上映されている。 <https://www.reihayama.net/>

03. 金仁淑 | KIM Insook



金仁淑《Eye to Eye》2023年 [参考図版] ©2022 Kim Insook

韓国の漢城大学芸術大学院西洋画科写真映像コースに留学後、15年間のソウル暮らしを経てソウルと東京を拠点に制作活動を展開。「多様であることは普遍である」という考えを根幹に置き、「個」の日常や記憶、歴史、伝統、コミュニティ、家族などをテーマに制作を行い、写真・映像を主なメディアとして使用したインスタレーションを発表している。2008年に光州市立美術館で個展「sweet hours」を開催。韓国国立現代美術館や、ドイツ・デュッセルドルフ市などが運営するアーティスト・イン・レジデンスで滞在制作を行い、大邱フォトビエンナーレ、森美術館(東京)、東京都写真美術館など、国内外の芸術祭や企画展で作品を発表する。

04. 大木裕之 | OKI Hiroyuki



大木裕之《meta dramatic 劇的》2023年 [参考図版] ©2022 Hiroyuki Oki Courtesy of ANOMALY

東京都生まれ。高知県、東京都、他各地拠点。東京大学工学部建築学科在学中の80年代前半より映像制作を始める。1990年にイメージフォーラム・フェスティバル審査員特別賞を受賞、1996年第46回ベルリン国際映画祭ネットバック賞を受賞。その表現活動は映像に留まらず、ドローイング、インスタレーション、パフォーマンスにまでおよぶ。世界各地を移動しながら生活と哲学の相関関係を探り、動的ネットワークで複雑に構成される世界を描き出す。独特で詩的な映像表現は国内外で高く評価され、国際展および映像祭に多数参加。

テーマ 展示

東京都写真美術館 2F
無料（～2/19まで開催）

パンデミックによってテレワークやオンラインでの会話が日常化し、AI（人工知能）や機械学習、Web3.0、メタバース、AR/VR、NFTなど、新しい技術の普及は、人々の身体感覚までも変化させています。しかし、現代に限らず、写真や映像は機械の眼を通して表現されるものと定義すれば、近代以降、すべての表現は、テクノロジーを介在しているといっても過言ではありません。2F展示室では、アートと技術の関係を身体や機械、人工などの観点から紐解きます。

05. ルー・ヤン | Lu YANG



ルー・ヤン《DOKU（ルー・ヤンのデジタル転生）》
2020年～ [参考図版]

出品協力：スパイラル/株式会社ワコールアートセンター

宗教や死生観、脳科学、神経科学などの問題が絡み合う世界を、強烈なビジュアルを通して表現してきたルー・ヤン。本作は作家が2020年から取り組んでいる〈DOKU(ドク)〉シリーズの最新作である。主人公は最新のモデリング技術を用いて作られた、人間（=作家本人）のアバター。その名は仏教の経典にある言葉「独生独死独去独来」に由来し、現実世界はもとより仮想空間やどの次元においても、命は孤独であることを含意する。デジタル・テクノロジーによる「転生」を通して、生死という根源的な問いがどのように開かれていくだろうか。

06. ホウコオ・キュウ | Houxo QUE



Houxo QUE 《Death by Proxy #1》2020年

1984年東京都生まれ。10代でグラフィティと出会い、ストリートで壁画中心の制作を開始。以後、蛍光塗料を用いたペインティング作品とブラックライトを使ったインスタレーションを展開し、制作過程を見せるライブペイントも実施。2012年頃よりディスプレイに直接ペイントする制作を始める。個展に「16,777,216 views」、「apple」、「Proxy」（Gallery OUT of PLACE TOKIO、東京、2015年/2018年/2020年）。グループ展に「ENCOUNTERS」（ANB TOKYO、東京、2020年）、「Reborn-Art Festival 2021-22」（宮城県石巻市ほか、2021-22年）など。
<http://www.quehouxo.com/>

07. 細倉真弓 | HOSOKURA Mayumi



細倉真弓《digitalis #10》、
〈digitalis〉より 2021年
©Mayumi Hosokura, courtesy of
Takuro Someya Contemporary Art

1979年京都府生まれ。触覚的な視覚を軸に、身体や性、人と人工物、有機物と無機物など、移り変わっていく境界線を写真と映像で扱う。立命館大学文学部および日本大学芸術学部写真学科卒業。個展に「Sen to Me」（Takuro Someya Contemporary Art、東京、2021年）、「NEW SKIN | あたらしい肌」（mumei、東京、2019年）、「Jubilee」（nomad nomad、香港、2017年）など。写真集に『NEW SKIN』（MACK、2020年）、『Jubilee』（artbeat publishers、2017年）、『transparency is the new mystery』（MACK、2016年）など。
<http://hosokuramayumi.com/>

08. 越田乃梨子 | KOSHIDA Noriko



越田乃梨子《机上の岸にて》2010年

東京都写真美術館蔵

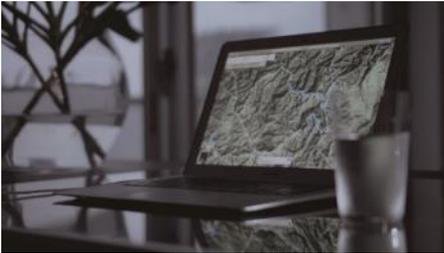
京都府生まれ。東京藝術大学大学院映像研究科メディア映像専攻修了。独自の撮影手法とシンプルな仕掛けで、世界を映像として見る眼を引き出す装置、映像作品を制作している。近年は舞台における映像の可能性を身体的なアプローチから模索している。
<https://noriko-koshida.net/>

テーマ 展示

東京都写真美術館 B1F
無料（～2/19まで開催）

都市は、歴史や個人の記憶、自然環境の変化など様々な物語を抱えています。人間が作り出した都市のテクノロジーや、そこに存在する自然に目を向けると、見えない都市の営みが表れてきます。B1F展示室では、都市や自然の諸相をめぐるアーティストたちの表現や、そこに向けられた機械の眼などを歴史的に考察します。

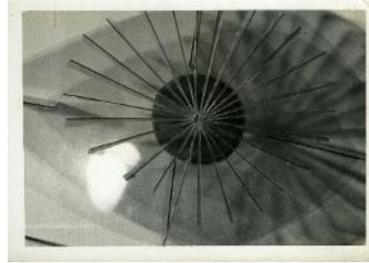
09. 梅沢英樹 + 佐藤浩一 | UMEZAWA Hideki + SATO Koichi



梅沢英樹 + 佐藤浩一 《Echoes from Clouds》
2021年

梅沢英樹（1986年生まれ）と佐藤浩一（1990年生まれ）は、ともに東京藝術大学大学院美術研究科を修了。自然環境と産業などの関係性についてフィールドワークやリサーチを行い、映像とサウンドを組み合わせたインスタレーションやパフォーマンスを展開している。主な個展・グループ展に「エマージェンシーズ！040 梅沢英樹 + 佐藤浩一 《液体性の構造》」（NTTインターコミュニケーション・センター [ICC]、東京、2021年）、「タイランド・ピエンナーレ」（コラート市内ほか、2021-22年）など。

10. 実験工房 | Jikken Kobo (Experimental Workshop)



実験工房 オートスライド 《試験飛行家W・S氏の眼の冒険》1953/1986年 個人蔵

美術、音楽、文学などジャンルを超えた若手芸術家約14人が集まって結成された芸術グループ。グループ名は詩人・美術評論家の瀧口修造による。本格的な活動は1951年秋、「ピカソ祭」（日比谷公会堂）に際し上演されたパレエ「生きる喜び」の台本、舞台装置、音楽を担当することから始まり、その活動は1957年頃まで続いた。様々なジャンルが結びついた創作的な活動を行い、戦後の芸術運動にて先駆的な功績を残し、近年再評価されている。

11. 北代省三 | KITADAI Shozo



北代省三 《浜離宮》1956年
東京都写真美術館蔵

1921年東京都生まれ。2001年没。父親の影響で少年期よりカメラに親しむ。1941年新居浜高等工業専門学校機械科（現・愛媛大学工学部）を卒業。「実験工房」の主要メンバーとして絵画、モビールなどを手がけ、航空・建築写真、大型カメラや飛行機に関する著作や教育活動などの幅広い活動に加え、「エントロピー—造形における無秩序の実験」をテーマに精力的な制作を続けた。

12. 築地仁 | TSUKIJI Hitoshi



築地仁 《写真像》より
1984年
東京都写真美術館蔵

1947年神奈川県生まれ。1967年東京写真大学短期大学部卒業。1979年に金子隆一、島尾伸三、谷口雅と「CAMERA WORKS」設立。個展に「方向量」（フォトギャラリー・プリズム、東京、1977年）、「写真像」（ツァイト・フォト・サロン、東京、1984年）、「築地仁の現在（いま・なぜ・ここに）1974-1998」（写大ギャラリー、東京、1998年）、「母型都市」（タカ・イシイギャラリー フォトグラフィック/フィルム、東京、2019年）など。1985年に写真集『写真像』（CAMERA WORKS、1984年）で日本写真協会新人賞受賞。

テーマ 展示

東京都写真美術館 B1F
無料（～2/19まで開催）

13. フィオナ・タン | Fiona TAN



フィオナ・タン《リフト》2000年

東京都写真美術館蔵

1966年インドネシア生まれ、オランダ在住。25年以上にわたり世界各地で映像インスタレーションや写真作品を展示し、国際的に高い評価を得ている。2002年「ドクメンタ11」に参加。2009年「ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展」オランダ代表。日本では金沢21世紀美術館（石川、2013年）、東京都写真美術館（2014年）、国立国際美術館（大阪、2014年）、IZU PHOTO MUSEUM（静岡、2016年）で個展を開催。

<https://fionatan.nl/>

教育普及プログラム

東京都写真美術館 1F
スタジオほか

恵比寿映像祭2023では、映像祭をより身近に、より深く楽しんでいただくため、様々な教育普及プログラムをご用意しています。また、インクルーシブな観点で、より多様な人々に楽しんでいただけます。



(左) 第14回恵比寿映像祭の様子
(中) ボランティアによるアニメーションオープンワークショップ(2022年)の様子
(右) 鏡リュウジ氏

1: 「やさしい日本語」による恵比寿映像祭ガイド

日本在住または日本語勉強中の外国人の方にも、わかりやすい日本語表現で、恵比寿映像祭2023の見どころをご紹介します。印刷物を配布するほか、ウェブサイトでも見る事ができます。恵比寿映像祭が初めての方の、鑑賞を深める入門としてもおすすめです。

[配布場所] 東京都写真美術館 1Fロビー チラシラックほか
恵比寿映像祭のホームページ (予定)

2: 恵比寿映像祭2023 見どころトーク (オンラインプログラム)

恵比寿映像祭2023の概要や代表的な展示作品、見どころなどを、映像祭スタッフのナビゲートでご紹介します。キュレーター、出品作家なども登場予定です。オンライン開催なので、外出が困難な方、地方や海外在住の方も参加することが可能です。東京都写真美術館や映像祭にまだいらしたことが無い方も、ぜひご参加ください。

[出演者] 恵比寿映像祭エデュケーター、キュレーター、出品作家など
[会場] オンライン (YouTubeライブを予定)
[対象] どなたでも (日本語での実施)
[参加費] 無料

3: インクルーシブ・プログラム 恵比寿映像祭2023について、みんなで話そう! (手話通訳付き/オンラインプログラム/事前申込制)

恵比寿映像祭2023の概要や主な展示作品を、映像祭スタッフのナビゲートで紹介した後、参加者も交えて会話を広げていきます。みんなで映像祭について話しましょう! 映像祭をご覧になった方も、これからご覧になるという方も歓迎です。複数の視点が集まることで、新しい見方や発見があるかもしれません。障害の有無に関わらず、どなたでもご参加いただけます。手話通訳付きのため、手話を母語とする方も安心してご参加ください。

[出演者] 恵比寿映像祭スタッフ、手話通訳者
[会場] オンライン (Zoomを予定)
[対象] どなたでも
[定員] 10名程度 ※事前申込制 応募者多数の場合は抽選
[申込方法] 後日ホームページにてご案内します

4: 恵比寿映像祭を星占いでガイダンス

占星術で導き出した各星座の特性をもとに、星座ごとのおすすめの作品をご紹介します。思いがけなく結ばれる作品との縁が、より深い鑑賞体験へ誘います。どの作品から鑑賞すればよいかわからないという方や、すべての作品を鑑賞するには時間が足りないという方は、星の導きを手がかりに映像祭をめぐってみてはいかがでしょうか。

[占星術] 鏡リュウジ (占星術研究家)
[配布場所] 東京都写真美術館各階ロビー チラシラックにて配布のほか、恵比寿映像祭ホームページでも一部ご紹介いたします

5: TOPボランティアによる アニメーションオープンワークショップ

東京都写真美術館のボランティアによる、アニメーションのワークショップです。アニメーションの原理に触れながら、当館オリジナルのキットを用い、世界にひとつのおどろき盤を手作りします。事前予約は不要です。短い時間で完成させることができますので、上映の待ち時間などにも気軽にお立ち寄りください。

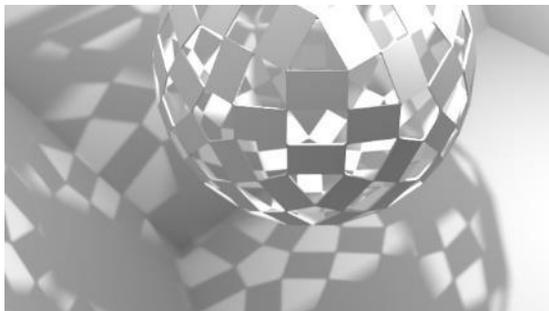
[スタッフ] 東京都写真美術館 ボランティア
[会場] 東京都写真美術館 1Fスタジオ
[参加費] 無料 ※事前予約不要
[対象] どなたでも
[定員] 各日50名

オフサイト展示

恵比寿ガーデンプレイス
センター広場

恵比寿映像祭では地域に広がるフェスティバルとして、多くの方にお楽しみ
いただくことを目的とし、恵比寿ガーデンプレイスの中心に位置するセンター
広場に、体験型作品を展示いたします。

野老朝雄、平本知樹、井口皓太



野老朝雄、平本知樹、井口皓太

《FORMING SPHERES》2023年 [参考図版]

東京2020オリンピック競技大会の開会式で、ドローンにより球体状の
組市松文様が空中に浮かぶピクセル映像として60秒間表現されたこと
は、多くの人の記憶に残っています。本プロジェクトは、このドロー
ン演出における組市松文様球体を彫刻化し、光を投影することでその
光と影による新たなインスタレーションとして再構築するものです。

開会式のドローン演出を手がけたメンバーである、エンブレムをデザ
インした野老朝雄、デジタル・ファブリケーションの技術を使って廃
プラスチックを材料として表彰台を制作した平本知樹、そして「動く
スポーツピクトグラム」をデザインした井口皓太が協働し、変化に富
んだインスタレーションを発表いたします。

[日時] 2023年2月3日(金)～2月19日(日)10:00-20:00

*最終日は18:00まで

[会場] 恵比寿ガーデンプレイス センター広場

[料金] 無料

[休日] 2月6日(月)、13日(月)は休止

※本作品は、今秋10月23日に渋谷東武ホテル地下2階にオー
プンしたシビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT] に
おける「アート・インキュベーション・プログラム」のアー
ティスト・フェロー活動の一環として制作されます。

CIVIC
CREATIVE
BASE
TOKYO
シビッククリエイティブ・ベース東京



(左から) 野老朝雄、平本知樹、井口皓太

コラボレーション
展示

日仏会館ギャラリー

恵比寿映像祭は、国際的な文化機関と連携して様々なプログラムを恵比寿の地から
発信しています。今回は、大使館や海外文化機関、地域の文化組織と連携し、コラ
ボレーション展示を行います。

Automated-Photography

オートメイテッド・フォトグラフィ

éca l

Schweizerische Eidgenossenschaft
Confédération suisse
Confederazione Svizzera
Confederaziun svizra
Embassy of Switzerland in Japan
スイス大使館

MFJ
日仏会館



《See me in Depth》2019年 ©ECAL/Gohan Keller

人の介入が徐々に排除され、機械が機械のために自動的に生み出す画像が増えています。本展では、ローザンヌ美術大学 (ECAL) の写真修士課程がとらえたこの状況を、没入型の音響とヴィジュアル構成で展開。自動写真撮影の美的・概念の可能性を探る批評的見解をよりすぐりの作品と共に提示いたします。

会期中は、関連イベントとしてスペシャルトークセッションも開催予定。

[日時] 2023年2月3日(金)～2月19日(日) 13:00-18:00 (予定)

[会場] 日仏会館ギャラリー

(東京都渋谷区恵比寿 3-9-25)

[料金] 無料

[休日] なし

[問い合わせ] 03-5449-8437 (在日スイス大使館 広報文化部)

[HP] <https://automated-photography.ch/> <https://vitality.swiss/jp>

スイス大使館は、2025年に開催される大阪・関西万博に向けたコミュニケー
ション・プログラム「『Vitality.Swiss』ーゆたかな未来って?」を開始します。
ヘルシーライフ、持続可能な地球、人間中心のイノベーションの3つのテーマ
を柱に展開するこのプログラム。本展示は、「Vitality.Swiss」の一環として参
加しています。

Vitality
Swiss

地域連携 プログラム

地域連携各所

YEBIZO MEETS地域連携プログラムでは、恵比寿近隣の地域で活躍するアートの担い手と総合テーマを共有して、それぞれよりすぐりの展覧会ほか多彩なイベントを開催します。各施設をめぐり、シールを集めると記念品がもらえるシールラリーを今年度も実施しますので、この機会にぜひ訪れてみてください。

1. (公財) 日仏会館 / TMF日仏メディア交流協会



映像と講演 ここだけのフランス映画V ミシェル・ Gondrier監督『ムード・インディゴ』



ミシェル・ Gondrier 『ムード・インディゴ/うたかたの日々』 2013年 / 95分 / フランス語 (日本語字幕)
©Brio Films - Studiocanal - France 2 Cinema All rights reserved

ミシェル・ Gondrier監督の作品はどれもみな、家内制手工業的イメージにあふれています。もしかしたら、そのルーツはボリス・ヴィアンの原作小説のなかにあったのかも？ヴィアンのピアノ型カクテル製造機から、映画的テクノロジーの夢を広げてみましょう！

【日時】 2023年2月10日(金) 18:00 (予定)
【会場】 日仏会館ホール
【住所】 渋谷区恵比寿3-9-25
【料金】 一般1,000円 学生500円 (要事前申込/70席)
【申込】 Peatix 公益財団法人日仏会館ページ (後日公開)
【問い合わせ】 bjmjfj@mfjtokyo.or.jp
【HP】 www.mfjtokyo.or.jp/

2. YEBISU GARDEN CINEMA



『小さき麦の花』



リー・ルイジュン 『小さき麦の花』 2022年 / 133分 / 中国語 (日本語字幕) ©2022 Qizi Films Limited, Beijing J.Q. Spring Pictures Company Limited. All Rights Reserved.
第72回ベルリン国際映画祭コンペティション部門出品
2022バリャドリッド国際映画祭最高賞受賞

互いに家族から厄介払いされ、見合い結婚した貧しい農民ヨウティエと内気なクイン。互いに寄り添い、土に寄り添い、作物を育て家を作り、慎ましく日々を生きるが、変わりゆく時代の波にさらされ……。愛という言葉は一度も出てこない〈永遠の愛〉の物語。

【日時】 2023年2月10日(金)~公開予定
【会場】 YEBISU GARDEN CINEMA
【住所】 渋谷区恵比寿4-20-2 恵比寿ガーデンプレイス内
【料金】 大人1,900円、大学生1,500円、高中小学生1,000円、シニア1,200円、プライベートシート2,100円
【休日】 なし
【問い合わせ】 0570-783-715 (ナビダイヤル)
【HP】 <https://www.unitedcinemas.jp/ygc/>

3. MA2Gallery

MA2 Gallery

小瀬村真美新作展



小瀬村真美 《Before the Beginning - The Dessert -》 2022年 / giclee-print

描きかけの絵画のように見える新作の大判写真シリーズ《Before the Beginning》、絵画の中の極々最小限の場面をドキュメントする新作映像シリーズ《Test Shots》など、絵画になりかけている、つまりカメラの前で作品としてのポーズをとろうとしているモチーフを撮影した不完全な作品たちを中心に構成します。

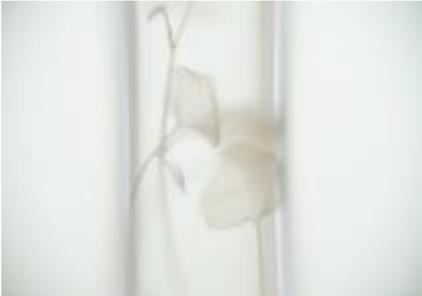
【日時】 2023年2月3日(金)~3月4日(土) 13:00-18:00
【会場】 MA2Gallery
【住所】 渋谷区恵比寿3-3-8
【入場】 無料
【休日】 日・月・火・祝日 *火曜は事前メールアポイント制
【問い合わせ】 03-3444-1133、ma2gallery@ma2gallery.com
【HP】 www.ma2gallery.com

地域連携プログラム

地域連携各所

4. 工房親

Anais-Karenin: Mediate Plants



アナイ・カレニン《Untitled》2021年

「Mediate Plants」展では、テクノロジーを「知識の集合体」と捉え、植物との関係性やコミュニケーションを植物の共存性、相互依存関係を通し「敏感な媒体」としての機能を探ることを目的とします。デジタルメディア、庭園、伝統的な南アメリカのレシピから作成された薬用植物物質などで構成されるこの展覧会は、植物言語の技術(テクノロジー)によって生成される分野に注目します。

[日時] 2023年2月1日(水)～2月25日(土)
水-土 12:00-19:00
日・祝 12:00 -18:00 (最終日は17:00まで)
[会場] 工房親
[住所] 渋谷区恵比寿 2-21-3
[入場] 無料
[休日] 月・火
[問い合わせ] 03-3449-9271
[HP] <https://www.kobochika.com>



5. MuCuL

佐藤慶子 みかがみ



佐藤慶子《みかがみ》2023年
© Keiko Satoh MuCuL Tokyo 2023

人間の五感で享受し感じる「水」をテーマとする佐藤慶子の映像作品シリーズ。タイトル「水鏡」の読みを「みずかがみ」ではなく「みかがみ」とし、平仮名から喚起されるイメージを大切にしたいと願いました。

[日時] 2023年2月3日(金)～2月19日(日)13:30-18:30
[会場] MuCuL
[住所] 渋谷区恵比寿2-21-3
[入場] 無料
[休日] 月・火
[問い合わせ] 03-3446-2618
[HP] www.e-mucul.com/



6. NADiff a/p/a/r/t

NADiff Window Gallery vol.87 シシヤマザキ



NADiff a/p/a/r/t 展内の様子

店内エントランスのWindow Galleryにて、自身をモチーフとしたロトスコープアニメーションの表現で知られているシシヤマザキの展示を開催。併せて近年取り組んでいる陶器作品もご紹介します。

[日時] 2023年2月2日(木)～2月26日(日)13:00-19:00
[会場] NADiff a/p/a/r/t
[住所] 渋谷区恵比寿1-18-4 NADiff A/P/A/R/T 1F
[入場] 無料
[休日] 月・火・水 (祝日の場合は営業)
[問い合わせ] 03-3446-4977
[HP] www.nadiff.com/



地域連携プログラム

地域連携各所

7. MEM

金村修展



金村修 2022年 [参考図版]
©Osamu Kanemura, courtesy of MEM

電線や看板、ビルがひしめき合う都市や路地裏の風景をソリッドに撮影することで知られる金村修は近年、ドローイングやコラージュ、映像を精力的に発表しています。本展では新聞や雑誌の切り抜きによる過剰とも言えるコラージュと、新作映像作品を展示します。

[日時] 2023年2月2日(木)~2月26日(日) 12:00-19:00

[会場] MEM

[住所] 渋谷区恵比寿1-18-4 NADiff A/P/A/R/T 3F

[入場] 無料

[休日] 月

[問い合わせ] 03-6459-3205

[HP] www.mem-inc.jp

MEM

8. AL / TRAUMARIS

Law-technology? High-quality!
Yoshihiko Sato, MEGANE, Yuko Mohri



佐藤好彦《5 Neck Mustang》2021年

最先端ではないが完成度の高い、いわゆる「ローテク」で高度に洗練された作品、あるいはシンプルで強靱な作品を制作する作家（佐藤好彦、メガネ、毛利悠子ほか）を紹介。情報弱者を産むハイテク偏重の時代、人間の身体に近いテクノロジーの未来を探ります。

[日時] 2023年2月2日(木)~2月12日(日)

11:00-19:00 (最終日は18:00まで)

[会場] AL

[住所] 渋谷区恵比寿南3-7-17

[入場] 500円

[休日] なし

[問い合わせ] 03-5722-9799

[HP] <http://www.al-tokyo.jp>

9. ART FRONT GALLERY

釘町彰 個展：人間の土地から



釘町彰《From the Land of Man》2022年
©Akira Kugimachi, courtesy of ART FRONT GALLERY

映像と、精緻な絵画で構成されるインスタレーションを展示。文明の起源を追求すべく原始的な風景を描いてきた釘町が、本個展では再び人間の視点に立ち戻り、そこを出発点として風景と対話することで我々は再び真の人間性を取り戻せるのではないかと問います。

[日時] 2023年2月3日(金)~3月19日(日)

水-金 12:00-19:00、土日祝 11:00-17:00

[会場] ART FRONT GALLERY

[住所] 渋谷区猿楽町29-18 ヒルサイドテラス A棟1F

[入場] 無料

[休日] 月・火

[問い合わせ] 03-3476-4869

[HP] www.artfrontgallery.com

地域連携プログラム

地域連携各所

10. N&A Art SITE

N&A Art SITE

TERASAKI Taiji “Paradise: Lost and Saved” (仮称)



タイジ・テラサキ《Palmyra Atoll》2022年

ハワイを拠点に活動する日系アメリカ人アーティスト、タイジ・テラサキは、科学者とクリエイターの家で育ち、写真、彫刻、大規模なインスタレーションなど、様々な技法を使って、アートの可能性を探求してきました。本展では人為的な環境破壊によって失われた太平洋の楽園（パルミラ環礁）の復活をテーマに展覧会を開催します。

[日時] 2023年2月3日(金)～2月19日(日)12:00-17:00 (予定)

[会場] N&A Art SITE

[住所] 目黒区上目黒1-11-6

[入場] 無料

[休日] 日・月 (予定)

[問い合わせ] 03-6261-6098

[HP] <https://nanjo.com/>

11. POETIC SCAPE

POETIC SCAPE

兼子裕代 APPEARANCE



兼子裕代 (Dr. Dreame's Mouth Music)
タイプCプリント、3連作、各762x1016mm、2018年
©Hiroyo Kaneko, Courtesy of The Third Gallery Aya

誰もが情報化社会の中に生き、過剰ともいえる情報と常時接続している現代。兼子裕代は「歌う」というプリミティブな行為によって、人がその束縛から解放される時に立ち現れる光景をとらえています。

[日時] 2023年2月3日(金)～2月19日(日) 13:00-19:00

[会場] POETIC SCAPE

[住所] 目黒区中目黒4-4-10 1F

[入場] 無料

[休日] 月・火

[問い合わせ] 03-6479-6927

[HP] <https://www.poetic-scape.com/>

12. 景丘の家

景丘の家
KAGEOKA NO IE

Ponboks 浮遊地下室で光あそび



Ponboks《浮遊地下室で光あそび》イメージ

2月は「景丘の家SPECIAL MONTH」。いつでも観たり、聞いたり、作ったり、感じることでできる特別な1ヶ月です。B1プレイフロアでは、体験型展示クリエイターPonboks（ポンボックス）の作品2点をご紹介します。アクションと光のアニメーション演出で不思議を楽しめる体験型作品をお楽しみください。

[日時] 2023年2月1日(水)～2月28日(火) 11:00-18:00

土・日・祝日 10:00-17:00

[会場] 景丘の家

[住所] 渋谷区恵比寿4-5-15

[入場] 無料

[休日] 月、2月12日(日)

[問い合わせ] 03-6455-7835

[HP] <https://kageoka.com>

地域連携プログラム

地域連携各所

13. まなび場、恵比寿

YEBISU GARDEN PLACE



アートと共にある暮らし ～映像アートの祭典 | 恵比寿映像祭をめぐってみよう



第9回恵比寿映像祭 オフサイト展示ガイドツアーの様子【参考図版】
提供：東京都写真美術館

恵比寿ガーデンプレイスと東京都写真美術館が担う「まなび場、恵比寿」。アートにあまり馴染みの無い方でもアート鑑賞体験を楽しめます。今回は、訪問先での作家やギャラリー解説などとともに、アート・コミュニケーションプラットフォーム「ArtSticker」の運営メンバーと恵比寿映像祭東ルートを周遊します。鑑賞後は、恵比寿ガーデンプレイスでカフェブレイクなども予定。詳細はホームページにて。

[日時] 2023年2月4日(土) 14:00-15:30 (予定)

[集合] 周遊開始スポットに現地集合

[定員] 10名程度

[周遊プラン] 東京都写真美術館会場を起点に東ルート3会場程度をめぐり

[参加費] カフェなどにおいて、実費がかかる場合がございます

[お問い合わせ] 参加申込の詳細は、後日ホームページでお知らせします

プレスリリース／広報用画像／ご取材に関するお問い合わせ

このリリースのお問い合わせ先

恵比寿映像祭広報担当（共同ピーアール株式会社）：田中（たなか）、安田（やすだ）
TEL：03-6264-2382／FAX：03-6700-5620／E-mail：yebizo2023-pr@kyodo-pr.co.jp
携帯：080-8866-6183（田中）、090-7909-5164（安田）

※本リリース内で使用している写真を広報用画像としてご用意しています。

広報用図版申請フォーム：<https://tayori.com/f/yebizo2023/>

より申請をいただくか、

①ご所属 ②貴媒体名 ③掲載予定時期 ④ご希望画像の作家・作品名などを記入のうえ、
上記のプレス担当者までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

* 図版をご掲載の際は、必ず作品キャプション及びクレジットの表記をお願いします。

* 図版の無断掲載はご遠慮ください。また、トリミング、文字掛け等の加工はできません。

※諸般の事情により、開館時期・内容等を変更する場合がございます。

※オンラインによる日時指定予約および前売券の販売開始日はプレスリリースVol. 03で発表します
展覧会等の詳細、最新の情報は映像祭ホームページをご確認ください。

恵比寿映像祭公式ホームページ：<https://www.yebizo.com>

東京都写真美術館

TEL：03-3280-0099 / FAX：03-3280-0033

TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM
